

2013年度 第3四半期 決算電話カンファランス 主な質疑応答

日時：2014年2月13日（木）17：00～18：00（説明：30分 質疑応答：30分）
説明者：エア・ウォーター（株） 上席執行役員 広報・IR室長 岸 貞行

<産業ガス>

Q1：産業ガス供給の供給形態別数量の回復度合い

A1：シリンダー、ローリーは、リーマンショック前の水準までは戻っていないが、いずれも底打ち感を実感している。ローリーは、徐々に数量が増えていたが、10月に入ってからさらに上向いたと感じている。シリンダーはローリーよりも早く回復してきている。一方オンサイトは、リーマンショック前の水準を割り込んだことはなく、鉄鋼生産の好調を受けて第3四半期の酸素数量は過去最高水準で推移し、来期もこの傾向が続く見通し。

Q2：第3四半期（10～12月）の増益要因

A2：鉄鋼オンサイト（高炉）と炭酸ガスの販売数量増加。炭酸ガスは、粗ガスの原料不足で需給タイトな中、炭酸ガス新工場のタイムリーな設備投資により拡販を図ることができた。

Q3：第4四半期の産業ガス需要の見方

A3：自動車、建機、造船の回復を受け、溶接用アルゴン（エルナックス）や炭酸ガスの数量、産業機材関連が確実に増加し、明るい兆しが見えてきた。一方、ヘリウムは依然として大幅な輸入量の減少が続いており販売減のリスクを織り込んで保守的に見ている。

Q4：エレクトロニクス向け産業ガス供給の今期見通し

A4：パネルはまずまずの水準、半導体向けではDRAMが好調、ソーラー向けは順調。

<ケミカル>

Q5：タール蒸留事業の今後の見通し

A5：中国の電炉用電極材需要の回復次第と考えている。今下期から来上期にかけては厳しさが続くものと思われる。

<医療>

Q6：第3四半期が前年と同水準、第4四半期への積み残しが、かなりあると見てよいか

A6：第3四半期までは、SPDなどの新規連結がプラスに推移するも、それ以外は前年並み。第4四半期は概ね順調に仕上がっている。